

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度発生予察技術情報第8号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

## 平成20年度技術情報第8号

7月下旬のヒノキ球果での寄生状況調査で果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）が多く確認された。今後、新成虫の増加に伴い、餌不足によりヒノキ樹から離脱して局地的に果樹園へ飛来し、吸汁加害する恐れがあるので、発生状況に注意が必要である。

### 1 対象作物 カンキツ、ナシ、カキ等

### 2 情報の根拠

- （1）ヒノキ球果での寄生状況調査では、全ての調査地点でカメムシ類の成・幼虫が確認され、ツヤアオカメムシが7.5頭/地点（うち、幼虫2.7頭）、チャバネアオカメムシが15.8頭/地点（うち、幼虫9.1頭）と、前年に比べて寄生密度が高い（表1）。
- （2）ヒノキ球果では老齢幼虫の割合が高く、新世代成虫が発生している可能性が高い（図1）。
- （3）本年は越冬成虫がやや多かったことに加え、ヒノキ球果結実量が中程度で前年よりも多いため、球果での寄生虫数が前年よりもかなり多い。
- （4）ヒノキ球果に寄生しているカメムシ類は、口針鞘数（吸汁痕数）が約25本/果を越えると樹上から離脱する。7月下旬の平均口針鞘数は4.6本/果（前年0.4）で、7月上旬の0.1本/果（前年0.1）よりも増加している（表1）。
- （5）これまでのところ、県内5ヶ所の予察灯での誘殺数は少なく推移しているが、ヒノキ球果量は地域によって差があるため、今後、新成虫の増加に伴い、ヒノキ樹から離脱して局地的に果樹園へ飛来する可能性がある。

### 3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。
- （2）山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来が多くなる傾向があり、特に、防風樹としてヒノキ樹を植栽している園地では注意する。
- （3）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。
- （4）黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯するとチャバネアオカメムシへの飛来防止効果が高い。
- （5）果実への袋かけや防虫網（網目：4mm）の被覆は、被害を軽減できる。ただし、袋かけは、果実が肥大すると、被害を受けやすくなるので注意する。

<参考資料>

表1 ヒノキ球果でのカメムシ類寄生状況及び口針鞘数（7月下旬調査）<sup>1)</sup>

調査場所	平成19年					平成20年				
	ツヤアオカメムシ		チャバネアオカメムシ		平均 口針鞘数	ツヤアオカメムシ		チャバネアオカメムシ		平均 口針鞘数
	幼虫	成虫	幼虫	成虫		幼虫	成虫	幼虫	成虫	
いちき串木野市1	0 <sup>2)</sup>	0	3	1	0.4	7	8	14	12	6.9
いちき串木野市2	0	0	9	1	0.8	4	5	14	14	9.1
薩摩川内市東郷町	0	0	0	0	0.2	0	3	0	4	2.1
さつま町	0	0	0	0	0.2	0	0	5	3	0.6
阿久根市	1	0	12	5	0.4	4	8	8	12	0.9
出水市高尾野町	0	0	1	0	0.3	4	14	6	6	3.3
出水市1	0	0	0	1	0.3	4	3	7	1	4.8
出水市2	0	0	1	1	0.4	0	0	10	8	1.4
垂水市1	0	0	1	1	0.5	2	0	13	2	9.6
垂水市2	-	-	-	-	-	2	0	16	1	7.5
南さつま市加世田	0	0	0	0	0.2	2	8	5	7	4.7
南さつま市金峰町	0	0	1	0	0.9	-	-	-	-	-
日置市吹上町	-	-	-	-	-	3	8	11	10	5.0
平均	0.1	0.0	2.5	0.9	0.4	2.7	4.8	9.1	6.7	4.6

注) 1. 調査日：平成19年7月25～27日，平成20年7月28日～30日（日置市吹上町：8月1日実施）  
 2. 1地点5ヶ所における防虫網で20回振るい落とすとした数値

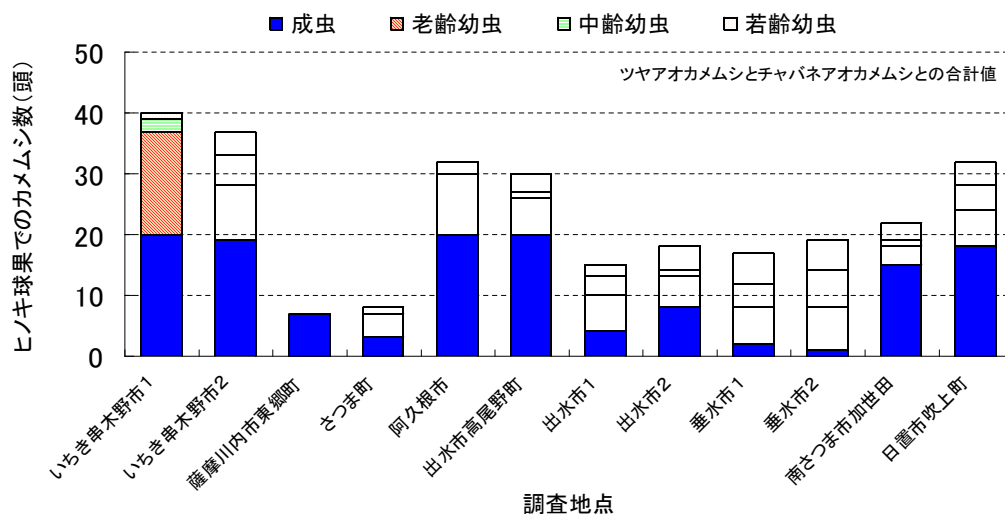


図1 ヒノキ球果上でのカメムシ類（2種計）の寄生虫数（平成20年7月下旬調査）

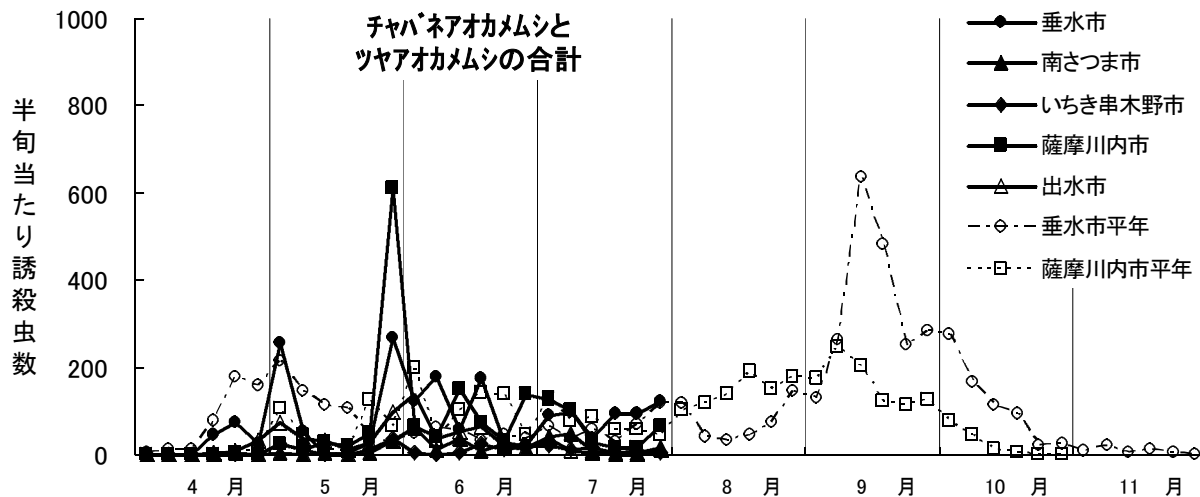


図2 予察灯におけるカメムシ類（2種計）の誘殺状況（平成20年）